

第二問(現代文) 解答例 ※文系のみ

問一

△悟空は自分に嘘をつけぬ正直者で、自己に対して強い信頼を抱いているが、それは周囲に説得力をもつことに加え、自然と自信さえも与えてくれる。そして世界を自分にとって素晴らしいものとして位置づける。(7点)

問二

△三蔵法師は外面的困難にぶつかったときでも、自分の心が動揺しないよう普段から構えができていて、いっどこで死んでも幸福であり続けられる心を持っているから、肉体を守ろうとする必要がないから。(8点)

△この世において生物は哀れなものであるという悲劇をも達観して、なお、正しく美しい生活を求め続けることができる尊い強さをもって心の持ちようを完成させているので、外面的な困難は内面をゆるがせるものでないがゆえに、外面的困難を打開する必要がないから。(8点)

問三

△悟空が師である三蔵法師が自分より優っている点を理解しておらず、ただなんとなく師父から離れられないのだと思い、弱きも者への憐憫だと自惚れ、師への気持ちの中に優者に対する本能的な畏敬、美と尊さへの憧憬が加わっていることをみずから知らないのに対して、三蔵法師もまた、自分の悟空に対する優越を知らずにおり、妖怪の手から悟空によって救い出されるたびごとに涙を流して感謝している。このように二人が自分たちの真の関係も知らずに互いに敬愛しあっているから。(9点)

△悟空と三蔵法師との関係は、本当は三蔵法師がどんな危機的状况でも揺るがない貴い精神を持っていることを悟空が敬愛して魅かれているのに、悟空はもちろん三蔵法師本人までもが、その精神ゆえの三蔵法師の優位さに気づかず、外的弱さばかりを見て、悟空は三蔵法師を憐れみの心を持って助けてあげて、三蔵法師は悟空の救いにしばしば感謝する、という本来とは逆転した関係が築かれているから。(9点)

↓どちらも、波線部の記述で、「俺」(＝沙悟浄)の立場(本人は気づいていないが、俺にはわかる)について触れられると良かった。

※問四・五は紹介する解答例なし。問四は比較的よくできており、模範解答に近い答案が多く見られたため、逆に問五は難しかったようで、十分に得点できた答案がないため。